

## 熊本大学男女共同参画推進基本計画に係る具体的な取組について

部局名( 先端科学研究部 )

### 目標1:男女共同参画社会の実現に貢献する教育内容を充実させ、男女が共に学び合うことを可能とする就学環境を整備する。

平成 21 年度から「サイエンス・プロジェクト for 九州ガールズ」として開始した女子中高校生 の理系進路選択支援活動は、平成 29 年度より「はばたけ！熊本サイエンスガールズ」として実施している。女子中高生の理系進路選択支援事業に関して、理学系教職員が企画運営に関係するとともに、大学院自然科学教育部男女共同参画推進委員会からの依頼に応じて理学部、工学部及び自然科学教育部・研究科の女子大学生・大学院生が各種企画に協力している。特に、理系ロールモデルについての講演会は、理系学部進学希望を持つ中高校生が具体的な将来像を知ることが出来る機会として効果を上げている。また、オープンキャンパスに合わせて開かれる進学相談会は、高校生の興味に応じて現役学生と個別に相談する機会として多くの参加者を得ている。これら行事の参加者からは、極めて高い評価を得ており、理系学部に進学する女子高校生及び大学院に進学する女子学生の割合を増やし、将来の女性教員・研究者増加につなげるという意味で、優れた取組と考えている。大学院自然科学教育部としての取組ではあるが、女性教員と大学院生、学部学生との懇談会である Women in Science の開催を継続してきた。

### 目標2:男女がともに個性と創造性のある研究を推進するための研究環境を整備する。

大学院先端科学研究部での取り組みであるが、平成 22 年度に科学技術振興調整費(平成 23 年度より科学技術戦略推進費) 女性研究者養成システム改革加速「バッファリングによる女性研究者養成の加速」に採択され活動を続け、平成 27 年度末までに 10 名の新規女性教員を採用してきた。採用した女性研究者には研究費、研究スペース等の面での支援を行い、メンター教員の支援のもと、自立した環境での活発な研究を支援した。平成 28 年以降も、新規採用教員のみならずすべての女性教員に対して、論文投稿経費や論文校閲経費等の支援を継続している。事業終了後の平成 27 年度以降も、着任 2 年目および 3 年目は年間 100 万円の研究費を支給してきた。加えて、全女性教員を対象に、スキルアップ経費と称して、論文校閲費や会議参加費などの支援を行っている。また、新規養成女性研究者には 3 名のメンター教員をつけて支援を行う体制を構築し、メンター会議での情報交換を行った。

<p><b>目標3:男女共同参画社会実現の原動力となる人材を育成し、地域及び国際社会への貢献活動を推進する。</b></p>
<p>大学院先端科学研究部での取り組みであるが、平成 29 年度から平成 33 年度までの 5 年の計画として策定された「第 2 期熊本大学男女共同参画推進基本計画」に掲げる事項の推進を図るために、平成 22 年に採択された科学振興調整費事業「バッファリングによる女性研究者養成の加速」事業では、事業終了後の計画を含めた形で、具体的な目的・計画をホームページで公開している。</p>
<p><b>目標4:次世代育成支援と女性の活躍推進を可能とする職場環境を醸成する。</b></p>
<p>大学院先端科学研究部での状況であるが、平成 22 年度から平成 27 年度までに「バッファリングによる女性研究者養成の加速」プログラムにおける年度計画に基づき、職位を問わない女性限定の公募を実施し、平成 27 年度末までに 10 名の女性教員を新規に採用した。この間に新規に雇用した女性教員のうち 3 名が、着任後に出産し、現在も育児をしながら教育研究活動を継続している。</p>
<p><b>その他:目標1から目標4までのほか、男女共同参画推進に取り組んでいること。</b></p>
<p>教員公募を行う際には必ず「男女を問わず、出産、育児、介護に専念（あるいは従事）した期間について考慮することを希望される場合は、その旨付記してください。」や「熊本大学は、男女共同参画を推進しています。（詳細は、ホームページを御覧ください。<a href="http://gender.kumamoto-u.ac.jp/">http://gender.kumamoto-u.ac.jp/</a>） 選考にあたっては、男女共同参画社会基本法にのっとり、適正に行います。」を記載している</p>